

第2学年英語科指導案

日時 平成19年10月17日(水)5校時

場所 野田村立野田中学校

学級 2年A組(男子17名、女子20名、計37名)

指導者 T1 熊谷 康弘 T2 志賀 圭子

T3 ジェマ・クラーク

1 単元名 Unit 5 A Park or a Parking Area?

Starting Out (New Horizon English Course book 2)

2 主題について

(1)教材観

本単元では言語材料を通して、接続詞(if, that, when, because)についての学習が中心となっている。接続詞を学習することにより、幅広い自己表現が可能になり、長文などの内容理解もできるようになるので、接続詞を学習する必要性を強調しながら授業を進めていきたい。また、文が長くなることによって、生徒がつまりく可能性が考えられるので、英文の構造や区切りを意識させながら指導していきたい。

内容は駐輪場建設の是非についての話題となっているため、身近な話題に置き換えながら、自分の意見を表現し、課題を解決しようとする姿勢を養わせることに適した題材である。

(2)生徒観

全体的に明るい雰囲気、言語活動や発言も積極的に行い、授業にも落ち着いて臨んでいる。また、予習としてノートに単語の意味調べ、本文を書いてくることが定着している。しかし、一方で個人差が一年時と比べると目立つようになってきているので、音読活動を軸とし、基礎・基本の徹底を図っている。

四技能の中で「書くこと」についての苦手意識が高く、昨年度の学習定着度調査やCRT検査の結果を見ても書くことについての正答率に課題が残る。語彙力、基本文、語順の定着に課題があり、自己表現を苦手とする傾向がある。本時では「if」を用いて自分の考えを表現できるように、身近なものを用いて興味・関心を引き出し、積極的な取り組みができるように促していきたい。

(3)指導観

学習指導要領では「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」を目標としている。

実践的なコミュニケーション能力を養う上で必要不可欠な基礎・基本の定着を図るために、生徒の実態に配慮しながら、十分な反復練習を行っていきたい。また、言語の裏側にある話題にも触れることで、常に生徒の興味・関心を引き出すような授業を心がけていきたい。

本単元では自分の意見を言う表現「I think ~」、理由を述べる表現「Because」などの表現を学習するので、「英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする」、「英語を聞くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする」を軸に自己表現をしながら、友達とコミュニケーションをとることで意欲を高めていきたい。

3 指導計画(Unit 5 全10時間)

・接続詞オリエンテーション

…1時間

- ・Starting Out(接続詞 if) ……1.5時間(本時1時間目)
- ・Dialog(接続詞 that) ……1.5時間
- ・Reading for Communication(接続詞 when) ……2時間
- ・Reading for Communication(接続詞 because) ……2時間
- ・Listening Plus「テレビ番組」 ……0.5時間
- ・Speaking Plus「病院で」 ……1時間
- ・まとめと練習 ……0.5時間

4 本時の指導について

(1)目標 「if もし～ならば」の表現・文構造を理解しよう。

(2)指導の構想

Warm-up で授業へ集中できる雰囲気を作り、本時の題材をスムーズに導入していきたい
 パターンプラクティスをする時間を十分に確保し、if の文構造になれるようにしていきたい。
 Unit5 の学習の最初になるので、接続詞というものを常に意識できるようにする。
 T3を活かしながら、十分に個別支援を行っていきたい。

5 本時の具体の評価基準

評価目標		具体の評価規準		
		A:十分満足できる	B:おおむね満足できる	努力を要する生徒への支援
知識理解	「if」(もし～ならば)の形・意味を理解することができる。【知識理解】	「if」(もし～ならば)の形・意味を正確に理解することができる。	「if」(もし～ならば)の形・意味を理解することができる。	戸惑いを解消できるように机間指導で手がかりを与えるなど、適に支援をする。
表現の能力	「if」(もし～ならば)の形・意味・を理解し、自分の考えを表現できるようになる【表現の能力】	「if」(もし～ならば)を用いて、正確に自分の考えを表現することができる。	「if」(もし～ならば)を用いて、自分を表現することが出来る。	戸惑いを解消できるように机間指導で手がかりを与えるなど、適に支援をする。

6 展開案 別紙参照

段階	学習内容	学習活動	学習形態	指導上の留意点
----	------	------	------	---------

導 入 10 分	1 Greeting			元氣よく挨拶をする。
	2 Song	・既習単語の確認をしながらのリスニング活動。	一斉	授業にスムーズに入れ るような雰囲気を作る。
もし～ならばという言い方を覚えよう				
展 開 35 分	3 本時の学習課題の提示	・ALTとJETの対話から、本時の学習課題を気付かせる。	一斉	本時の学習課題が自然に設定できるように、場面提示に配慮する。
		・本時の新出文である「if」の文の構成を理解する。	一斉	音声から if の文についてとらえられるように支援する。
		・ピクチャーカードを用い、口頭練習をする。	一斉 ライン 個人	一斉 ライン 個人へとつなげ、何度も口頭練習を行う。
	4 言語活動	・センテンスゲームを行い、「if」の位置を意識しながら、口頭練習を行う。	全体 個人	ゲーム性を持たせながら、「if」の文の全体、個人への定着を図る。
	5 英文の構成についての確認	・文頭に「if」が来る場合と、真ん中に来る場合の違いに気付かせる。	一斉	二つの文のパターンがスムーズに理解できるようにする。
	6 言語活動	・「if」の文を用いて、インタビュー活動を行う。	一斉 個人	「if」の文を用いて、スムーズにインタビューできるように指導する。
	7 言語活動	・「if」の文を用いてのコミュニケーション活動。	一斉 個人	ALTとの対話からモデル対話の提示をする。
	8 演習問題	・プリントの問題に取り組み、「if」の文への理解を深める。	個人	ワークシートを用いて、全体で大切な事項や注意すべき点について確認する。また、一人一人の定着度を確認しながら、下位の生徒に支援をしていく。
終 末 5 分	9 本時のまとめ 10 次時の予告	・本時のまとめを行い、宿題を確認する。	全体	最後に「if」の文のまとめを行う。

センテンスビンゴゲーム

	If you like ONE PIECE,	If you want to know about New Zealand,	If you want to study English,
please call me.			
please come to the teacher's office.			
please tell me.			